令和６年　１１　月　２０　日

令和６年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和６年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

令和6年4月18日（木）

3　調査対象

小学校　第６学年（国語，算数，児童質問紙）

中学校　第３学年（国語，数学，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

①　国語　　５３人

②　算数　　５３人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており，実施教科が国語，算数の２教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

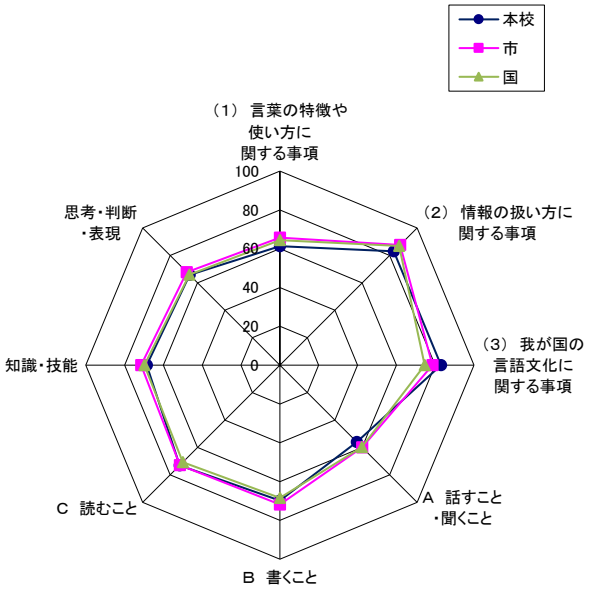
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸小学校第６学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	（1） 言葉の特徴や使い方に関する事項	61.3	65.7	64.4
	（2） 情報の扱い方に関する事項	83.0	87.6	86.9
	（3） 我が国の言語文化に関する事項	83.0	78.6	74.6
	A 話すこと･聞くこと	56.0	59.9	59.8
	B 書くこと	69.8	71.8	68.4
	C 読むこと	73.0	72.9	70.7
観点	知識･技能	68.6	71.5	69.8
	思考･判断･表現	65.8	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

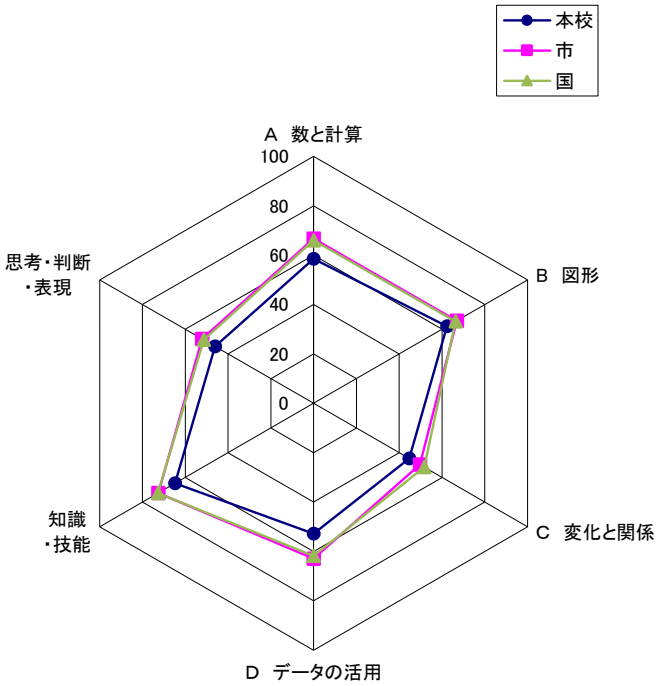
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
（1）言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は61.3%で市平均より4.4ポイント低い。 ○文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる問題では，市の平均正答率より10.8ポイント高い。 ●話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる問題では，市の平均正答率より10.6ポイント低い。	・主語と述語の関係把握はよくできているため，この理解を基盤としつつ，文構造全体への意識を高め，より複雑な文脈においても正確に捉える力を育成していく。 ・場面に応じた適切な言葉遣いを意識させる指導をしていく。具体的な例を提示しながら，それぞれの特徴や使い分けを理解させ，表現力を高める指導をしていく。
（2）情報の扱い方に関する事項	平均正答率は83.0%で市平均より4.6ポイント低い。 ●情報と情報の関連付けの仕方，図などによる語句と語句の関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる問題では，市の平均正答率より4.6ポイント低い。	・図やグラフ，文章など複数の情報源から，必要な情報を適切に選択し，関連付けながら解釈する力を育てていく。 ・情報を整理するための構造的な視点を意識させ，図表を用いた表現にも慣れ親しむ機会を設けていく。
（3）我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は83.0%で市平均より4.4ポイント高い。 ○日常的に読書に親しみ，読書が，自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかをみる問題では，市の平均正答率より4.4ポイント高い。	・読書習慣の定着を図り，読書を通して得た知識や考えを自身の学びや成長につなげるために，並行読書に継続して取り組ませるなどして，新たな興味関心につなげたり，文章に対する分析力や思考力を養うなどしていきたい。 ・多様なジャンルの書籍に触れる機会を提供し，読書体験を共有する活動を通して，読書の楽しさや意義を深く理解させる。 ・読書体験の共有や書評活動などを通して，言語感覚を磨き，表現力を豊かに育む指導をする。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は56.0%で市平均より1.5ポイント低い。 ○資料を活用するなどして，自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題では，市の平均正答率と同程度であった。 ●目的や意図に応じて，日常生活の中から話題を決め，伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題では，市の平均正答率より6.6ポイント低い。	・グループワークやロールプレイングなどの活動を通して，話題の選び方，構成，表現方法を具体的に学び，実践的なコミュニケーション能力を育成していく。 ・話し手の意図を捉えて話を聞いたり，自分の考えと比較しながらメモに書き加えたりするなどして，自分の考えをまとめる活動を積極的に取り入れていく。
B 書くこと	平均正答率は69.8%で市平均より2.0ポイント低い。 ○目的や意図に応じて，事実と感想，意見とを区別して書くなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題では，市の平均正答率より3ポイント高い。 ●目的や意図に応じて，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる問題では，市の平均正答率より6.9ポイント低い。	・事実と感想，意見の区別は優れているため，この力を土台に，目的や意図に応じた多様な表現方法を習得させ，より説得力のある文章作成へとつなげられるよう，各単元で意識して「書く活動」に取り組ませていく。 ・「書く活動」に対する苦手意識を減らすため，宿題等で日記を書いたり，学校行事などの振り返りを書いたり，読書後に感想や書評を書くなど，日常的に文章を書く機会を増やしていく。
C 読むこと	平均正答率は73.0%で市平均より0.1ポイント高い。 ○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる問題では，市の平均正答率より4.1ポイント高い。 ●登場人物の相互関係や心情などについて，描写を基に捉えることができるかどうかをみる問題では，2.4ポイント低い。	・登場人物の言動や情景描写から，相互関係や心情をより深く読み解く力を育成していく。本文に根拠を求めながら考察する活動や，心情の変化を追う活動などに積極的に取り組んでいく。 ・読んで分かったことや感じたことなどについて友達と交流する場を設定し，対話的な学びから自分の考えを深めることができるようにする。

宇都宮市立御幸小学校第６学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度 本校	本年度 市	本年度 国
領域	A 数と計算	58.5	66.7	66.0
	B 図形	62.3	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	44.7	49.6	51.7
	D データの活用	52.8	62.9	61.8
観点	知識・技能	64.8	72.6	72.8
	思考・判断・表現	46.1	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は58.5%で，国の平均より7．5ポイント低く，市の平均より8．2ポイント低い。 ○計算に関して成り立つ性質を活用して，計算の仕方を考察し，求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題では，市の平均正答率より1．8ポイント高い。 ●除数が小数である場合の除法において，除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる問題では，市の平均正答率より12．7ポイント低い。	・今後も，基本的な計算の定着に向けた練習を継続するとともに，児童の状況に応じて複雑な問題を解決する力も身に付けられるよう，習熟度別学習を生かして個に応じた指導の充実を図る。 ・示された場面をしっかり解釈し，自分の考えを式や言葉を使い説明できるよう，ペアやグループでの対話的な学びを授業の中に積極的に位置づけていく。
B 図形	平均正答率は62.3%で，国の平均より1．0ポイント低く，市の平均より1．6ポイント低い。 ○直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる問題では、市の平均正答率と同程度である。 ●球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え，立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる問題では，市の平均正答率より6．4ポイント低い。	・図形を構成する要素に着目し，授業の中で図形の観察や構成，作図などの活動を意図的に増やし，図形に対する見方・考え方を深める活動を随時行うようにする。 ・平面図形や立体の学習では，ICTを積極的に活用し，具体物を実際に観察したり操作したりする算数的な活動を通して，図形の特徴を理解できるようにする。
C 変化と関係	平均正答率は44.7%で，国の平均より7．0ポイント低く，市の平均より4．9ポイント低い。 ○速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる問題では，市の平均正答率と同程度である。 ●道のりが等しい場合の速さについて，時間を基に判断し，その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題では、市の平均正答率より7．3ポイント低い。	・問題場面の数量の関係を捉えられるよう，図表やグラフに表し，視覚的に考えることができるよう指導していく。 ・話し合う学習を通して，ふさわしい理由や答えの導き方を考えさせる場面を設定し，筋道を立てて説明する力を系統的に育てるようにする。
D データの活用	平均正答率は52.8%で，国の平均より9．0ポイント低く，市の平均より10．1ポイント低い。 ●円グラフの特徴を理解し，割合を読み取ることができるかどうかをみる問題では，市の平均正答率より11．3ポイント低い。 ●折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題では，市の平均正答率より8．0ポイント低い。	・グラフの読み取り問題の反復練習などを続けることで，読解力をつけ日常の場面でも生かせるよう今後も指導していく。 ・児童の取り組み易い身近な場面から，データを分析して問題を解決する心地よさを味わわせるよう問題場面を工夫し，目的意識をもって主体的に考えられるようにする。

宇都宮市立御幸小学校 第６学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して肯定的回答をした児童の割合が98.1%で，県の平均より0.6ポイント，全国平均より1.4ポイント上回っている。いじめに関連する授業を行う等普段の学習や生活指導を行う同時に，全児童によるいじめ0標語作りやその掲示，児童会の企画委員による集会活動などを行ったことによって意識が高まった成果であると考える。

○「理科の勉強は好きですか」の質問に対して肯定的回答をした児童の割合が88.7%で，県の平均より2.4ポイント，全国平均より5.1ポイント上回っている。また，「自然の中や日常生活，理科の授業において，理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりすることがありますか」の質問に対して肯定的回答をした児童の割合が90.5%で，県の平均より4.4ポイント，全国平均より7.3ポイント上回っている。学校内に，みゆき水族館コーナーや中庭の観察林，観察池等があり，豊かな動植物との触れ合いや昆虫の飼育観察によって意識が向上したと考えられる。

●「学校の授業以外に，普段（月曜日から金曜日），1日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間，インターネットを活用して学ぶ時間も含む）という質問に対して，「3時間以上」から「30分以上１時間以内」取り組む児童の割合が，75.5%で，県の平均より12.3ポイント，全国平均より6.1ポイント下回っている。学習時間が「30分未満」との回答が24.5%で，学習習慣の定着が不十分な児童が多い。引き続き，学年だよりや学級懇談会での家庭への啓発や意欲が高まる課題の工夫をしていきたい。

●「5年生までに受けた授業では，課題の解決に向けて，自分で考え自分で取り組んでいましたか」の質問に対して肯定的回答をした児童の割合が69.8%で県の平均より14ポイント，全国平均より12.1ポイント下回っている。また，「学級の友達との間で話し合う活動を通して，自分の考えを深めたり，新たな考えに気付いたりすることができていますか」の質問に対して肯定的回答をした児童の割合が75.4%で県の平均より13.4ポイント，全国平均より10.9ポイント下回っている。ペア学習やグループ学習などの話し合い活動を工夫して取り入れ児童主体の学習を充実させていく。

宇都宮市立御幸小学校（第６学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の定着	・音読活動の充実 ・朝の「ぐんぐんタイム」の実施 ・学習がんばり週間の実施 ・AIドリル，ステップアップシートの活用	・国語では，敬語の使い方に関する問題の正答率が低い。 ・算数では，場面と関連付けて式を読み取る問題や，2位数÷1位数の筆算について図を基に商の意味を考える問題では，正答率が低く，無回答率も高い。
読書活動の充実	・並行読書の実施に伴い，話合い活動や学び合いの場をより多く設定する ・読書活動を通して,言語活動の充実を図る	・国語では，主語と述語の関係を捉える問題の正答率が市よりも高いが，書くことに苦手意識を持っている児童が多い。事実と感想，意見などを区別して書くことは力がついているため，目的や意図に応じた多様な表現方法を習得させ，文章を書けるようにしていく。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
自分の考えを筋道を立てて説明したり，相手の考えと比較しながら話す・聞くといった問題におて平均正答率が市よりも下回っている。	・自分の考えや理由を相手に分かりやすく伝えたり，自分と比較しながら聞き取る学習の充実を図る。	・読書活動を通して，読み取る力を養う。また，自分の考えや感想を伝え合う活動を多く取り入れることで，表現力を伸ばし，自分の考えを深めるようにする。 ・ワークシート等の工夫や教師のコーディネートにより児童の考えの場が繋がるよう支援する。